

第2回千葉市新基本計画審議会第1部会 議事要旨

- 1 日 時 令和3年12月21日（火）10時00分～12時00分
- 2 場 所 オークラ千葉ホテル 3階 「ウィンザー」
千葉市中央区中央港1-13-3
- 3 参加者 《委員》13名（五十音順）
秋田 典子委員、秋元 裕子委員、浅野 幸子委員、石河 勲委員、市田 誠委員、
加藤 康幸委員、近藤 利砂委員、島田 利美委員、鈴木 雅之委員、高梨 園子委員、
轟 朝幸委員、中島 陽一委員、松永 哲也委員、渡部 茂樹委員、渡邊 真由委員
（欠席者 倉阪 秀史委員、細田 美和子委員、森川 博之委員）
《事務局》10名
峯村総務局長、山田総務局次長、神崎総合政策局長、米満財政局長、
加瀬経済農政局長、青柳都市局長、斉藤建設局長、野村水道局長、堺総合政策部長、
濤岡政策企画課長

4 議 題

- (1) 千葉市基本計画（原案）総論に対する追加意見について
- (2) 千葉市基本計画（原案）分野別計画について（「環境・自然」、「安全・安心」）
- (3) 千葉市基本計画（原案）分野別計画について（「都市・交通」、「地域経済」）
- (4) その他

5 議事概要

- (1) 千葉市基本計画（原案）総論に対する追加意見について
総論に対する追加意見及び対応の方向性について、事務局より説明を行った。
- (2) 千葉市基本計画（原案）分野別計画について（「環境・自然」、「安全・安心」）
前回部会における意見への対応の方向性について、事務局より説明を行った。
- (3) 千葉市基本計画（原案）分野別計画について（「都市・交通」、「地域経済」）
分野別計画（「都市・交通」、「地域経済」）及び事前意見について、事務局より説明を行った。
- (4) その他
今後の開催スケジュール・議事録の確定方法について、事務局より説明を行った。

6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（１）千葉市基本計画（原案）総論に対する追加意見について

（事務局）総論に対する追加意見及び対応の方向性について、資料１をもとに、事務局より説明を行った。

特に意見なし。

議題（２）千葉市基本計画（原案）分野別計画について（「環境・自然」、「安全・安心」）

（事務局）前回部会における意見への対応の方向性について、資料２をもとに、事務局より説明を行った。

<意見交換>

秋田委員

気候変動は、降雨の極端化が基本的な現象であり、降雨の極端化による洪水・治水対策を、流域治水として広域で連携して実施することが必要だと考えます。

また、気候変動により台風の激甚化も進んでいます。千葉県の台風被害は、暴風による荒廃山林の倒木と、それに伴う電線の分断という状況が特徴的な現象として発生しました。

安定的な電力供給・生活の維持のためにも、台風等への対策も重要だと考えます。

秋元委員

前回、幕張海浜公園で、水道が使えないという話をした後、すぐ担当部署の方から連絡をいただき、この公園は千葉市の管理ではないということが判明しました。千葉市が一生懸命頑張ろうとしても、県や国の方に思いが伝わらないと、何を計画しても取組みが進まない部分があるように感じました。

直接、計画に対しての意見ではありませんが、前回申し上げた意見への対応として、官民連携等による公園の魅力向上が位置付けられたということは、非常に素晴らしいことだと思います。

また、SNSで情報を集めていると、ある市民の方が青葉の森公園の近くに住んで４年経つのですが、非常に緑が綺麗で良い面もある一方で、池の水が一度も張っているのを見たことがなく、非常に残念だという話がありました。この公園も調べてみると県立ということでした。行政が、横の連携を通じて、県や国に対してしっかりと伝えていくことを今後お願いしたいと思います。

浅野委員

私は、防災をメインにしていますが、特に多様性の視点の防災について、この１０年ぐらい取り組んできているところです。

そこで、防災の災害に関するところで、人の暮らしや多様性に焦点を当てることを強調したほうが良いと思っています。それは、日本の防災が応急対応、発災直後の救命救助が主であり、ようやく避難生活の複雑さに目が向くようになってきていますが、生活再建のところが非常に不十分だからです。

災害対応体制における多様な主体の参画についても不十分な傾向があり、国連では、2005年の第2回防災世界会議において、災害対応のあらゆる段階でジェンダー視点を統合的に入れることの決議がされています。今、国や自治体の防災計画にも、男女共同参画や多様性の視点を盛り込むことが必要になっています。また、第3回の国連防災世界会議において、仙台防災枠組というものが採択されましたが、そこでも災害リスク及び災害の損失の大幅削減を目指す上では、人とその健康と生計に焦点を当てた発想が重要ということが言われています。

そのため、ジェンダー平等や男女共同参画、多様な立場の人の参画といった視点、

人の暮らしに焦点を当てることを入れていただくと良いと思います。

貧困削減の問題、女性や若者のエンパワーメントにも密接に結びついており、それは災害発生から避難生活期に至る災害対応としてイメージしやすいフェーズはもちろんのこと、格差が広がる中では生活再建が非常に難しくなっています。そのため、平常時の貧困削減や、女性・若者のエンパワーメントなどがしっかりできていないと、災害時に非常に深刻な問題が広がり、十分な支援ができない・生活再建に至らないといった問題が出てしまうため、その辺りを結びつけられると良いと思います。

千葉市は非常に早くから、防災会議の下に、男女共同参画の視点の専門部会を設け、真摯に取り組んでいる全国的にも先駆的な自治体です。だからこそ、格差や貧困問題、生活再建にも視野に入れていくと、非常に今の時代に合った計画になると思います。

轟部会長

資料2 No.42 について、MaaS の導入を踏まえつつとありますが、やはりまだ違和感があり、ここで MaaS という言葉を使わなくても良いのではと感じた次第です。

ご検討いただければと思います。

渡部委員

前回、欠席した中で大変恐縮ではありますが、安全・安心のところ、自助・共助・公助は大変いい言葉だと思っています。資料2 No.28 について、行政ばかりに頼らず自らやることも大切だと思いますので、自助・共助・公助と政策のタイトルがある中で、あえて行政の施策を前に持ってくる必要はあるのかなと疑問がありました。

現状の施策1についても、決して市民個人だけでやりなさいということではなく、防災教育の充実や地区防災計画の策定、新たな避難施設の確保など皆でやりましょうということのため、言葉の順番のとおりでも良いのではと思いました。

浅野委員

政策2の施策の順序の見直しについては、これまで国から自治体まで様々な防災政策に携わり、災害対応の色々な課題について勉強してきたことを踏まえ、前回の部会で発言させていただきました。当然、自助・共助・公助それぞれの場面で努力していくことが必要で、啓発自体は重要ですが、自助で賄いきれないのが災害です。

また、行政内部の縦割りの問題や、行政と住民・市民の間の連携体制が十分に議論されておらず、その狭間で非効率な状況に陥ることで、救援が遅れる、質が上がらないといった問題が見られています。そういった状況の中で、これは行政計画であるため、自助が先に来るということは、現状を踏まえると非常にまずいのではという危機的な思いがあり、前回発言させていただきました。

千葉市は、6年ぐらい関わってきた中で、非常に色々な努力をしていると評価する一方で、まだまだやれることはあり、せっかく頑張っているため、しっかりと市民の方と協働していただきたいと思っています。そのため、行政計画として責任の所在を明確にした形で、協働というのを打ち出していくべきではないかと思った次第です。

堺総合政策部長

ご意見ありがとうございます。いずれも重要なご指摘と認識しています。

これまでの私共の計画のつくり方、考え方だけ先に申し上げますと、各分野に全体的な網をかけるようなものを、総論部分で示しています。例えば、気候変動で言いますと、災害に強いまちづくり全般に関わってくるものを戦略的視点の一番に位置付けており、また、ダイバーシティ・インクルージョンというところも、分野横断的にこういう視点で取り組みましょうという形で、戦略的視点に位置付けています。

また、秋元委員から話のありました官民連携について、例えば県立公園をどうするのか、こういう県市間の連携強化というものを、総論のまちづくりを進める力の中で、記載しています。

我々としては、そのような考えでつくってききましたが、部分部分を見ると、そこが見えてこないというご指摘であったと思います。例えば、気候変動では、災害対応を分野2の安全・安心に記載していますが、再掲する・しないといったことも踏まえて、今一度、記載の仕方について検討したいと考えています。

議題（3）千葉市基本計画（原案）分野別計画に対する委員からのご意見

（事務局）分野別計画（「都市・交通」、「地域経済」）及び事前意見について、概要資料及び資料3をもとに、事務局より説明を行った。

<意見交換>

【「都市・交通」について】

中島委員

・分野別計画 P.46

「都市空間の再構築～」について、3都心に限らず、どこでも・どの場所でも、居心地がよく歩きたくなるまちづくりの推進が必要ではないかと思います。「3都心など」と書かれているため、3都心以外の場所も含むという受け取りでも良いとは思いますが、気になりました。

また、主な取組みとして、千葉駅周辺と幕張新都心については記載されていますが、蘇我副都心についてあまり書かれていない気がします。蘇我の周りのところはずっと課題として残っているため、今後の取組みをどうするのかと思っています。

・分野別計画 P.47

「本圏域への居住を推進」について、定住、二拠点居住についても併記しては如何かと思いました。

・分野別計画 P.48

「千葉港整備」について、千葉港が公共交通ネットワークとしてあまり使われていないと思いますので、新規航路など、人が乗って移動できるようなものを今後どのように推進していくかは、何か書き加えが必要かと思っています。

・分野別計画 P.49

「自転車を活用したまちづくりの推進」とありますが、色々なモビリティが出る中で、自転車に限らなくても良いのではと思っています。電動キックボードも出てきていますので、少し明確ではなくなりますが、「自転車等環境負荷の軽い新たな交通手段」とするなど、自転車に限らなくても良いのではと思いました。

・分野別計画 P.50

「分譲マンション支援」とありますが、賑わいを生み出すのは1階のところであり、そこに対する支援があっても良いと思います。フランスの事例では、1階で商売を行う際に減税措置があるなど、ウォークアブルなものをつくる時に1階の商店街というのは欠かせないため、そういったところへの支援があっても良いと思いました。

・分野別計画 P.51

「暮らし・ビジネス・学び・まち・市役所」について、市役所という言葉に違和感があります。建物のように感じるため、市政や行政といった別の言葉でも良いのではと思いました。

秋田委員

概要 P.45 について、持続可能な部分の言及がやや足りないと思ひまして、もう一つの施策として、例えば、土地利用コントロールやコンパクトなまちづくりといったところを入れると良いと思いました。

それは、千葉市であっても、これからの人口減少という中でスプロール等があると、

持続可能なまちをつくれぬ、また、ハザードエリアを避けて土地利用するということが非常に重要なため、土地利用のコントロールについて言及していただきたいと思ひます。

市田委員

概要 P.46 政策 2 について、幹線道路について記載されていますが、千葉市内は渋滞がひどく、新たな湾岸道や主要幹線道路の整備など、改善してほしいと市民は思っていると思ひます。そのため、表現方法を変えて、重点的にやっていくというところを入れていただきたいと思ひます。

そして、政策 3 の住宅・住環境の充実について、子育て世代の支援が目玉になると思ひするため、子ども・教育の分野に書かれているかもしれませんが、ここでももう少し盛り込んでいただければと思ひます。また、高齢者が安心・安全に生活できるということも、健康・福祉で少し謳っていますが、こちらにも記載したほうが良いと思ひます。少し被るところも出てくると思ひますが、暮らしを支える基盤の充実という点で、この二つは重要と思ひましたので、入れたほうが良いと感じました。

また、政策 4 のスマートシティの推進について、千葉市は全国的にも進んでおり、幕張メッセにおける AI バスの走行や、特区の活用といったことを先進的に取り組んでいるため、これも目玉になると思ひています。他の自治体よりも突出してやっているため、さらに進んでいくということを強調して、主な取組みのところにもう一つ具体的なことを盛り込むことができたらと思ひました。

石河委員

政策 3 施策 2 「持続可能な上下水道事業の推進」について、私たち生活者にとって水というのは一番大切なものだと認識しており、我々の組織としても毎年、千葉市をはじめ各市町村に持続可能な水の供給を訴えさせていただいています。

千葉市においては、県水道と市水道の両方が、市内の地域で分かれていると思ひますが、その中で、比率としては県水道の方が圧倒的に多く、事業の一体化を推進していかなければならないと思ひます。県からの部分からは供給されるが、市の部分については狭い範囲になってしまうため、予算的にも絞られてくると、設備の老朽化といった問題が出てくると思ひます。

そこで訴えたいのは、安定供給というところで、災害時において水の供給が止まってしまうと、生活インフラとして、一番重要なものが消えてしまうこととなります。前回議論させていただいた安全・安心のところ、下水道については対応するといったことが書かれていますが、上水道については記載がないため、もし書くのであれば、災害時における安定供給ということが大きな視点になると思ひます。

もう一点、原発事故時にもありましたが、放射能が空中を回り、上水道の施設に入ってしまうのではないかとといった懸念があります。そういった設備における対応等についても、災害という位置付けでもう少し内容を記載いただければと思ひます。

加藤委員

都市交通について、今後、電気自動車、EV 車が急速に発展すると思ひするため、その中で、充電設備の整備をどこかで進めておかなければならないと思ひます。

また、テクノロジーのところ、千葉市はかなり進んでいますが、ドローンの活用が今後盛んになってくると思ひます。そのため、ドローンについても、少し触れておいたほうが良いと思ひます。

高梨委員

商工会議所の勉強会での意見ですが、政策 1 施策 4 に関係して、成田空港の経済圏や機能強化を県が推進している中で、今後は成田だけではなく、周辺の伸び代が一番大きい、これを千葉市が取り込んでいかなければならないという観点で連携して

いくことが重要かと思います。千葉市が発展すれば、その果実を遅れているところにフィードバックできるといった、格調高い計画にしていけるのではないかと思います。

轟部会長

もう一点は、政策2施策2について、今後ポストコロナにおいて成田に外国人が多く訪れるようになった際に、千葉市をスルーして東京に行ってしまうといったことを避けるため、道路インフラが不可欠であると思います。千葉市に直結するインターチェンジを国への要請に取り入れ、ゲートウェイ・千葉市、ゲートウェイ・中央区に向けた取組みを、国と粘り強く調整を図っていく必要があるという意見がありました。

成田空港があるというのは千葉の重要な特徴のため、千葉市でも成田空港が近くにあるということを明記しても良いと思います。

それに関連して、政策1施策4のところでは、本市以東・以南のことが中心に記載されていますが、首都圏との関係も重要だと思いますので、こちらも明記したほうが良いと思います。

秋元委員

概要 P.45 政策1 施策1「都市デザインによる美しく心地よいまちづくりの推進」について、二つ説明が記載されていますが、分野別計画本編を読むと、説明が合致していない印象を受けます。概要では、「大規模開発における都市デザインの調整の運用」と記載されていて、本編では、市民がまちへの誇りや愛着を持てるといった内容になっており、少し説明がズレている気がしたため、どちらかに統一したほうが良いと感じました。

また、「千葉市ならではの」という言葉が記載されており、前回の魅力と一緒にですが、どういうことが「千葉市ならではの」を目指して皆で頑張っていこうということなのか、もう少し具体的に市民に分かりやすく変えた方が良いと感じました。

もう一点、個人的な意見かもしれませんが、千葉には街路樹が非常に多い一方で、若葉区に住んでいると、モノレールの下の木々の枝が全て取られ、真ん中の木だけが並んでおり、あれでは愛着が持てないと思っています。小さな子たちは、住宅街で10年近くは育つため、そういった子たちが自分の住んでいるまちの緑の豊かさを感じられるように交通を考えてほしいと感じました。

轟部会長

政策4のテクノロジーの進展について、分野目標にスマートシティを記載している中で、今後10年後、または、2040年を目指すのであれば、分野における政策のトップにあっても良いと感じます。他の政策も、今ある課題をより良くしようという改善を基本にしていますが、やはり大きく変えていくというイメージを付けたいと感じています。

関連して、デジタルツインと呼ばれていますが、サイバー空間において、都市空間・交通空間に動きや移動が表現され、それと実際のフィジカル空間が融合するなど、データの蓄積やシミュレーションが進化しており、そういった世の中になっていくと思います。このように、テクノロジーを使いながら、他の政策をより効率的に魅力あるものにしていくという風を感じているため、ご検討いただければと思います。

2点目は、政策2施策2のネットワークについても、デジタルツインのような考え方を示して、情報と絡めていかなければならないというのは同様ですが、海外の諸都市で進んでいるところは、都市政策の中心がモビリティ政策であるということです。つまり、まちの中を自由に移動することで、都市そのものの空間の魅力も上げていくという考え方が中心になっています。このようなモビリティ戦略について、計画原案

には MaaS のことも記載されていますが、ウォークや公共交通の利用し易さなどに関連して全てが複合的になっているという感じが見えないと感じています。これはスマートシティになるかもしれませんが、気になったところです。

3点目は、政策2施策3について、安全・安心としてバリアフリー、ユニバーサルデザインのことが記載されていますが、交通事故についても重要であり外せないため、記載していただきたいと思います。

浅野委員

都市・交通に関しては、多様な人やライフスタイルのニーズにしっかりと応えていくということを、もう少しはっきり書いていただけると良いと思います。

というのは、国土交通省が都市公園に関する大規模調査を40年近くやっていますが、質問項目が全く変わっておらず、カテゴリーも会社員・主婦・学生と、誰の意見を分析しているのだろうと感じたところです。また、前回の環境・自然分野でも申し上げましたが、欧米では、子どもが自由に遊べる公園と、大人がくつろげる公園を分けて考えるといったことも出てきており、足立区もそれを真似しているといった話をしました。例えば、市民が安心して歩きやすいといったように、誰が、どういう風に、といった個別性や多様性を意識して取り組めるように、この計画の段階でも仕掛けがあると良いと思いました。

それから、生活困窮者の話が、全体を見てもなかなか出てこないところです。子どもの貧困の話は出てきますが、特に住宅の困窮が一番の問題であり、そこが手当てされないと、働ける人も十分社会に復帰できないといったところがあります。その意味では、都市・交通の中に、住宅困窮者の方の手当がないというのは、非常にまずいのではと思います。その辺りは、空き家対策の話とも繋がる場所であり、国でもセーフティ住宅といった取り組みをしているため、少し触れる必要があるかと思います。

神崎総合政策局長

まず、テクノロジーとスマートシティについてご意見を多数いただきましたので、お答えできる範囲で答えさせていただきます。

分野別計画 P.51 政策4テクノロジーの進展について、全体に関わることから順番を見直したらどうかという意見がありましたので、検討させていただきます。

自転車を活用したまちづくりに関して、電動キックボードなど多様な手段が読めるようにとの意見をいただきましたので、こちらも検討させていただきます。

スマートシティの推進について、千葉市のこれまでの取り組みを活かしつつ、さらに一歩進めてほしいというエールを含めた意見をいただきましたため、具体策として主な取り組みをもう少し出せないか検討させていただきます。

ドローンについては、P.51に一部記載はありますが、民間活用も進みつつある状況の中で、主な施策としてもう少し出せないか、また、モビリティ戦略の見せ方についても、ご指摘がありましたため、検討させていただきます。

なお、現在同時並行で千葉市スマートシティ推進ビジョンを策定中であり、個別部門計画との整合を図りつつ、どこまで表現するのが適当かというところも含め、検討を進めてさせていただきたいと思います。

堺総合政策部長

その他、非常に貴重かつ多くのご意見を頂戴したと思っております。

秋田委員から政策1の部分で、持続可能な部分のニュアンスが足りないのではないかという指摘がありました。現状は、施策1の都市デザインの中に、例えば適切な土地利用の誘導など、言葉としては入っている認識ではありましたが、打ち出し方という部分の指摘だと思いますので、この辺りも検討してまいります。

圏域について、以東・以南は人口動態の結びつきとして地方創生の中でも打ち出してきたところですが、首都圏の関係、事前意見における東京方面との連携や、先ほど成田の話もありましたので、この辺りをどのように表現していけるか考えてまいります。

秋元委員から千葉ならではの美しく心地よいとは、どういうことかといった意見がありました。こちらは総論の都市構造の中で、千葉市型コンパクト・プラス・ネットワークとして大きくページを割いて記載しておりますが、ここだけ見ると分かりづらいということかと思しますので、どのように工夫できるか考えてまいります。

多様なライフスタイルという部分の反映についても、先ほどの総論で網を被せているという考え方ではありますが、記載の工夫ができるか考えてまいりたいと思います。

【「地域経済」について】

浅野委員

育児や介護と働くことの両立について、女性の活躍推進、育児休暇の取得促進といったことが全く入っていないのは、非常にまずいという風に思っています。

男女共同参画は、横串として全ての分野に関わるわけですが、この計画では、分野別計画 P.36 の地域社会という分野に押し込められていて、大事なことは全て触れているものの、たったこれだけという感じがします。特に経済領域では国を挙げて取り組んでいるところであり、海外でも経営に女性が参画している企業と、そうでない企業との倒産率に差があるといった研究もされています。

特に育児や介護との両立、女性の活躍についても、中小企業ほど厳しいところもあるため、そこをしっかりと掲げていくということは、千葉市の経済の活性化においても重要ではないかと思えます。

渡部委員

政策1の中に、高齢者、女性、障害を持つ方、あらゆる人が活躍できる社会づくりについて、雇用の面で文言があった方が良く思います。

また、政策1施策3の中で、企業の人材採用力向上支援が何を指しているかよく分かりませんが、この中で、あらゆる人たちが活躍できるような採用をするという意味なのでしょうか。そういう、あらゆる人たちが活躍できる社会づくりについて、文言があった方が良く思います。

松永委員

分野別計画 P.53 について、圏域における経済の中心都市としての役割を果たすと記載していますが、全体的に圏域という言葉が多すぎて、首都圏における千葉市の役割や県庁所在地としての千葉市の役割は何かと問われると思います。この書き方では、少し元気が出なさすぎる感じがするので、例えば、「東京圏あるいは首都圏の中核都市及び圏域における経済の中心都市」もしくは「千葉県の県庁所在地及び圏域における経済の中心都市」とするなど、首都圏や県庁所在地というイメージをもう少し強く出さないと、あまりにも縮小均衡的に見えてしまうため、検討いただければと思います。

ちなみに、横浜市やさいたま市では、やはりこういう形にはなっておらず、神奈川県あるいは埼玉県の県庁所在地としての色彩も強く出されているため、これではあまりに元気がなさすぎるのではないかというのが一点です。

次に、政策1に企業立地の促進を掲げている中で、これはもちろんやるべきことですが、実際に千葉市で企業立地ができるのかという点です。5月に菅田農場跡地の工業団地が全て売却され、今、市内に工業団地の空きはないはずですが、そのため、来年度

から産業用地の整備区画をつくるはずですが、まだ区画整理も始まっていないため、実際に産業用地ができるのは、恐らく 10 年以上先であろうと思います。すなわち、この基本計画の 10 年間の期間では、市内に公的な産業用地がないはずなので、その中でどのようにして企業を誘致するのかという点です。企業誘致を位置付けることに反対ではありませんが、これが実施計画や施策、事業などの段階に落ちたときに、一体何ができるのだろうかと思います。

その一方で、千葉市内の企業は割と内陸部に集積していることもあり、湾岸部を中心として、民有地については事業の縮小に伴い、空き地も出てきています。千葉市では、今まで民有地を県外の企業に斡旋するなどの取組みをあまりやっていませんでしたが、公共の用地ができない以上は、民有地を活用すべきだと思います。

そのため、施策 1 主な取組みの 2 ポツ目、「産業用地の整備」について、産業用地は整備しますが、民有地の活用を含めて中ポツで、「民有地の活用・調整」という言葉を入れるか、別のポツを作り、「民間用地の活用」、あるいは「マッチング支援」という取組みを位置付けていただき、基本計画の期間で新たな公共用地ができない以上、民有地を活用することを前に出していきたいと思います。

続いて施策 2 について、まず「企業におけるデジタルトランスフォーメーションや脱炭素化を促進するとともに」と書いてあります。もちろんやらなくてはなりませんが、もう少し広げて SDGs という言葉を入れた方がいいと思います。これまでの会議でも、SDGs の記述を色濃くしてはどうかという意見もありましたので、ここは「脱炭素化を含む SDGs 化を促進するとともに」というように、SDGs という言葉を入れてはいかがでしょうか。

また、主な取組み 2 ポツの「安定的な経営維持の支援」について少し違和感があり、安定的な経営維持とすると、発展しなくてもよく、倒産しそうな企業を倒産しないようにするための支援とも読めてしまうと思います。通常は発展性があるように記載すると思いますので、例えば、「持続的な成長を促す経営支援」など、成長を促すという言葉を用いた方が適切ではないかと思います。

最後に、施策 2 に足りない言葉として、既に他の委員からご指摘があったように、事業継承の支援やさらなる女性の活躍支援など、そのような文言を記載することが適切ではないかと思います。

市田委員

千葉市内で製造業の会社を営んでいる立場として、周囲の経営者の仲間を見ても、一番大事なことは産学官連携と創業支援だと思います。どちらも計画に書いてありますが、この 2 つは本当に大事であり、目玉でもあると思いますので、創業支援や産学官連携を頭の方に記載していただきたいと個人的に要望します。また、主な取組みについても、もう少し深く書いて、計画してほしいと思います。

そして、経営維持の支援について、肌感覚的なところもありますが、千葉市内外にかかわらず中小企業の経営者は、結構学んでない方が多く、経営者自体が生産性が悪い部分もあります。他の箇所でもリカレント教育があったと思いますが、実は労働者よりも経営者の方がもっと学べる仕組みを行政としてもできたらなと思います。一つに、先ほどの女性活躍や労働環境などの働き方改革について、全く興味がない経営者がたくさんいます、それが実態です。そして、ただ黙って待って、行政のせいにする人が多いので、先ほどの意見のとおり、「安定的な経営維持の支援」については言い方を変えた方がよいと思います。

千葉市は、産業振興財団が我々企業を手厚く支援していただいておりますので、このまま継続していただきたいですが、そういう支援が届かない経営者や企業も多いので、そこに対する支援など言葉を選びながら、計画に入れていただきたいと考えています。

渡邊委員

政策1の施策3及び4に関連した内容について、学生の立場から意見を述べさせていただきます。

学生としては、コロナ禍で対面の授業やフィールドワークができず、学びの場を失われてしまっているのが現状です。ただ、その中でも千葉市は、例えば対面でのインターンシップを開催していただき、若者に積極的に活躍の場を提供するというところに力を入れていらっしゃると思うので、学生への学びの場の提供ということについても、計画に入れていただければと思います。

近藤委員

先ほど市田委員からご指摘ありましたが、学ぶ姿勢が低い経営者が多いというのは同感です。

政策1 施策2の見出しですが、企業の生産性向上による持続可能な地域経済の確立とありますが、生産性向上というのは手段であって、これを見出しに持つことによって、主な取組みがすべて生産性向上に繋がらなければいけないなど感じました。そのうえで、取組みの中に脱炭素化促進支援という項目がありますが、これが生産性向上に繋がるかという違和感があります。企業が育つような地域経済の確立といった見出しに変えていただき、主な取組みに関しても、デジタルトランスフォーメーションについて、実際、中小企業はIT化すらされてないところが多いのが現状ですので、IT化と、デジタルトランスフォーメーションを一つの枠組みにして、項目の一つ作っていただいた方がいいかなと思いました。

また、脱炭素化促進支援に関しては、時代をとらえた変革への支援というところで、そのままでいいと感じました。

施策3について、他の委員の方からもご指摘ありましたが、若者や外国人を含む多様な人材という言葉がリード文に書いてあり、「含む」という言葉の中に、多様な人材すべてを想定していらっしゃると思いますが、私が受けた印象では、若者と外国人しか見てないのかなと感じました。障害者やLGBTQについても、言葉として入れたほうがいいのではないかなと思いました。

主な取組みのところも、対象を表す言葉が入ってないとその人たちが、置いてけぼりになる印象を受けたので、入れていただきたいと思いました。

施策4について、産学官の連携となっていますが、主な取組みを見た感じでは、連携しているイメージが全く見えないと思います。何を書けばいいか今アイデアはありませんが、もう少し産官学の連携しているイメージが分かるような取組みを、例示していただけるといいのかなと感じました。

高梨委員

勉強会の中で出た話ですが、千葉市は千葉県で唯一の政令指定都市ということで、もっと千葉県のゲートウェイとしての立場を強調できるような形ができればと思います。また、千葉市の発展によって南部や東総地域、あるいは北西部の経済発展が黙っていてもできるようなところから取り込むような政策があってもいいのではないかなと思います。

それと、千葉市で発展している幕張の美浜区や、千葉都心や蘇我を含む中央区の連携が少し弱く、何とかしないと県都としての役割を果たすことが難しいと思うので、

インフラ面の整備をできないものか、そういう計画を入れていただきたいという話が勉強会でありました。

中島委員

P56のMICEの推進について、2、3年前にMICEの誘致をしている方に、海浜幕張が候補地として上がらなかった理由を聞いたことがあります。それについて言われたのは、海浜幕張はホテルがあって部屋数はあるが、エグゼクティブが泊まる部屋がないと言われました。

今年も、オリンピック運営委員会の人に聞いたら、幕張が会場になっても、IOCの人や、各業界のトップは、泊まる場所がないからヘリを飛ばしてくれというような要望を受けたそうです。

MICEの推進はしたいところではありますが、市だけでできることでもないので、色々な巻き込みが必要だと思います。

また、海浜幕張だったら何かイベントみたいなもの、例えばサウスバイサウスウエストなり、都市と結びついた展示会とかがあるので、簡単ではないですが、そういうものができたらいいなと思っております。

秋元委員

観光協会の理事をしておりまして、MICEで千葉に訪れた方々に長く滞在をしてもらいたいということで、各ホテルさんなどと知恵を出し合っています。どうしても皆さん東京方面に行ってしまいます。やはり都市交通と地域経済というのは切り離すことができないと思います。

P56の政策2施策1の文章に、千葉らしさと書いてありますが、先日ニュースで、全然知らない小さな町が、ごみの分別を23種類、もう何十年もやっているとありました。それは日本の中では全然知られていないのに、世界が注目しています。他でやってない何か、例えば市民とともに何か新しいものをつくり出し、活かしていくことが必要ですし、千葉らしさにつながるのではないかと感じておりました。

いつも意見みたいな形になってしまいますが、やはり市民が何をすればよいのかということ、もう少し分かりやすくしてほしいと思います。特にMICEは、自分には関係ないと思っている市民の方がほとんどだと思いますので、そういった点をもう少し入れられたらよいと感じました。

石河委員

政策1施策3の雇用の確保と拡大について、コロナの様なパンデミックが起こると、業績がいい企業と極端に落ちる企業がどうしても発生しますが、在籍型出向というのが一つのキーとなって、だいぶ雇用もそこで守られたという経緯があります。

在籍型出向に関しては、基本的には厚労省から各都道府県へという流れになります。今後このようなパンデミックが起こる可能性はありますので、向こう10何年後にまた起こるかもしれません。その時に、市としても、そのような就労を、民間企業と連携して、一時的に別企業に行けるような制度を検討してもよいのではないかと思います。

もう一点、施策2の企業の生産性向上について、文言の話ですが、デジタルトランスフォーメーションは直接の生産性向上には当たらないと思っています。もしそれを言うのであれば、デジタルイノベーションではないでしょうか。

どちらかという、デジタルイノベーションができて初めてデジタルトランスフォーメーションに行き着くのですが、生産性の向上と言うのであれば、どちらかというこちらの文言なるかなと思っています。

それともう一つが、向こう10年間の計画の中で、脱炭素というのは当然まだまだ

先の話なので、そういった意味ではいいと思うのですが、この DX という言葉は何年後かにはもう使わなくなると思います。

そういった意味では、安易にこの言葉を今ここにに入れておくと、10年後にこの計画を見たときに古いと思われるので、用語は全体的に見直す必要があると感じました。

加藤委員

農業に携わっている関係上、お話しさせていただきたいと思います。

観光の方とも関わりが出てくるかと思いますが、他の都道府県に行くと、千葉市に農業があるのかとよく言われます。千葉市に農業はありますが、発信ができていないので、これは私達の責任かと思っております。

そこで、今考えているのが「観光農園」です。千葉市にいつ遊びに来て、観光農園に行って遊び、買い物をして帰れるようなものです。こういう農業を目指したいというのが一つございます。それには四季を通じてつくれる、観光団地というものもつくれたらいいなと思いますが、なかなか進んでおりません。なぜかという、農業は種を植えればできるものではなくて、それなりの開業資金がないと出来ないというのがあります。こういう支援をしてもらい、市民参加型の様な、皆さんで協力をしながらそういうものを育てていくといった、観光と農業を育成できる方向性をお願いしたいと思っております。

堺総合政策部長

非常に多数、かつ具体的なお意見をいただきありがとうございます。

冒頭、松永委員からの、圏域だけではなく、東京圏あるいは県都というような観点からの立ち位置もそうですし、高梨委員からも千葉県のゲートウェイとしてというようなお話もございました。

そのあたり、我々としてもその意を強くしたところであり、また、基本的な姿勢として、そういう支援や新しい部分の強調、あるいは中小企業の厳しい現状のご指摘もございましたけれども、事業の安定化というよりも、もっと促していくというような前向きな部分での書きぶりを検討してまいります。MaaS についても、力強いエールというような形で、叱咤激励をいただいたと思っております。

また、石河委員からも DX について、言葉の賞味期限というお話もございました。これについては、この計画全般を通じて、また改めて精査をしたいと思っております。

非常に参考になるご意見ありがとうございました。

この場で、全てのご意見にお答えすることはできませんが、事務局でしっかり受けとめまして、また次回で考え方をお示しさせていただければと思っております。

議題（4）その他

（事務局）今後の開催スケジュール・議事録の確定方法について、事務局より説明を行った。

特に意見なし。

—閉会—